

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	重点目標 自ら思いやる子ども の育成  手段 1 相手意識を高め る。 2 思いやりのあ る言動を増やす。	1について ○ 児童のアンケートによると「地域や友達に、先に元気のよくあ いさつをしていますか。」の問いに対して82%が肯定的な意見 であり、保護者のアンケートでは、77%が肯定的な意見であ った。 ○ 職員のアンケートでは、「相手を意識した挨拶、返事、発表が できていますか。」については肯定的な意見が54%であった。 ◇ 挨拶は、ある程度はできている状況であるが、相手を意識した 発表等は、児童への称賛を交えながら、模範を示す等の取組を今 後も継続していく必要がある。	3	3	○ 地域でも明るいあいさつができています。 ○ 学校内での挨拶はよくできていると思う。地域内にお いては、登校時はできているが、下校時は、大人に 対しての警戒心があったり、恥ずかしい気持ちがあ ったりするのか、もう一歩のようである。大人が率先し て挨拶をしたりするなど、大人がよい手本を示すべき だと思う。しかし、大人はほとんど車通行で歩いてい る人はほとんど見かけない。 ○ 家庭でのあいさつと地域でのあいさつは、意識に差 があるのではないか。 ○ 職員のアンケートでは、「発表」まで入っていたの で、その結果に大きな差が出たのではないか。 ○ あいさつについては、できる児童とできない児童の 差があるように思う。「先に元気よく」がなかなかで きていない。
	3 いじめ、不登校 の解消率100 %を目指す。	2について ○ 児童のアンケートによると「友達の名前を呼ぶとき、あだ名や 呼び捨てをせず、必ず『～さん』をつけていますか。」の問いに 対して73%が肯定的な意見であり、「ありがとうやごめんなさ いがすぐに言えますか。」の問いに対して83%が肯定的な意見 であった。 ○ 職員のアンケートでも、肯定的な意見は、「～さん」を付ける ことが75%、「ありがとうやごめんなさい」が68%であった。 ◇ 「～さん」付けについては、児童も職員もかなり習慣化が図ら れつつある。今後も指導と称賛を継続していく。			○ 学校内での挨拶はよくできていると思う。地域内にお いては、自分も孫に対して「～君」と呼んでしまう ので反省している。「ありがとう」「ごめんなさい」 は、とても大切な言葉であると思う。 ○ 子どもたちより大人の方が「さん」付けに慣れない ように思う。 ○ 名前を呼ぶときの「さん」はよくできていると思え る。
		3について ○ 児童のアンケートによると「今の学年になって、嫌なことをさ れたり言われたりしたことがありますか。」の問いに対して6 0%が「そう思わない。」という意見であった。 ○ 職員のアンケートでは、「いじめ・不登校に対する対応」につ いては、92%が肯定的な意見であった。 ◇ 毎月実施の児童や職員のアンケートを踏まえ、いじめ・不登校 対策委員会で共通理解を図り、組織的に対応するようしてい る。今後も常在意識をもち、早期発見・早期対応の取組を組織的 に進めていく。			○ この項目については、学力以上に力を入れてほしい。 ○ 子どもの世界は、大人にはなかなか分かりづらいこ ともあるが、子どもの目線に立って努力してほしい。 とかく成績のよい子が注目されがちであるが、一人一 人の児童の個性を尊重してほしい。 ○ マイナスの意識が大きくならないように努力をして ほしい。 ○ いじめは、「絶対に許さない」という強い態度を持 ち続けてほしい。 ○ 日々の指導がたいへんだと思うが、気付きが後手に 回らないように一致協力しての御指導をお願いした い。 ○ いじめ・不登校については、児童に寄り添うことが 大事である。また、素早い対応が望まれる。

